

# 2019年度 学校評価報告書

校名	三田市立けやき台小学校
----	-------------

## 1 学校教育目標

**夢にむかって 堂々と歩む子の育成**

(人とつながり 笑顔あふれる けやきっ子)

- ① 元気で明るい子
- ② やさしく素直な子
- ③ 興味を持ち、伝え合って学ぶ子

## 2 今年度の学校重点目標

- めざす児童像(人とつながり、笑顔あふれる 心ぼかぼかな けやきっ子)
  - 自問できる子に
  - ・「さわやかなあいさつ」が出来る子 → 自ら進んであいさつが出来る子 (表情・声・気持ちを感じて)
  - ・「だまってそうじ」が出来る子 → 進んでゴミを拾う等、より良い環境を求める子
  - ・「友だちを大切にする」子 → 「ありがとう、ごめんね、だいじょうぶ」が素直に言え、友だちを温かい言動で支える子
  - ・「歌声で響き合う」子 → 心を合わせ、声を合わせて表現できる子
- めざす教師像
  - ・専門家としての高い使命感を持ち 学び続ける教師
  - ・児童の内面(共感的)理解に努め、厳しさとおたたくさのある生徒指導ができる教師
  - ・組織の一員としての自覚を持ち 同僚や家庭・地域との連携を大切にせる教師
  - ・若い教師を育む教師集団をめざし、互いに関係性を深めつつ伸びていく教師

## 3 総合的な自己評価

子どもの育ち、学校教育、地域との連携等、全ての項目について良好である。児童、保護者アンケート共にほとんどの項目で「A(そう思う)、B(まあそう思う)」の合計がほぼ90%を超えていた。学校が「楽しい」も94%と、子どもたちは本年度も楽しく学校生活を送っていると考えられる。100%を目指し、今後もすべての子どもたちの笑顔があふれる学校を目指す。

あいさつは、以前から児童の意識と保護者の評価の差が大きな項目の1つであるが、「自分からしようとしている」について「A」(そう思う)、「B」(まあそう思う)と答えた児童が93%と前期と比べて2%ほど上がった。また保護者の評価も76%と、これも2%向上した。「目指す子ども像」実現への合言葉として習慣化を図るために、校門でのあいさつ運動やPTAの立当番、地域の見守り隊の方からも声かけをいただくことにより、これからも「あいさつをすることが気持ち良い」と実感できる働きかけを工夫していきたい。

「楽しい授業、学習内容が分かり興味を持って学べる授業」を目指した取り組みについては、その成果として子どもたちが学んだことを身につけられたという実感できているかどうかによって、日々の授業を振り返る指針となる。アンケート結果では児童・保護者ともに95%が「A・B」と回答しており、分かりやすい授業に努めていると回答があった。更に発見やワクワクする楽しい授業を目指し、授業方法の工夫改善に努めていく。

次年度以降においても、教職員の意識を一層向上させ、家庭・地域とも連携協力を図ることで、課題達成に向け取り組んでいきたい。

## 4 総合的な学校関係者評価

エアコンの設置やエレベーター工事着工等、教育環境の充実が図られつつあり、保護者の安心につながっている。

校長のリーダーシップのもと、組織的・計画的に学校運営を行っている。本年度は、より実践的に算数科の授業研究を通じた表現力の育成を柱に、学校・家庭・地域が密接に連携協力して特色ある教育活動が展開された。子どもたちに実態に応じ、「学びに向かう力を育てる」というテーマで継続した取り組みを進めており、さらに、子どもたちが主体的に考え、学んだことを生かせるよう指導願う。

課題とするあいさつについては、学校地域運営協議会委員や学習支援、下校見守りボランティアなどで顔を覚えている地域の私たちに、道路で出会ってもしっかり挨拶してくれている。

学校だよりの地域回覧や、HPの更新、学校参観の機会も数多く持たれるなど、子どもの育ちを常に家庭・地域に発信し、開かれた学校づくりが行われている。

学校地域運営協議会も順調なスタートを切っている。学校も地域もお互いにプラスとなる活動にしていきたい。引き続き、ボランティア活動の充実を図っていく。

いじめや虐待等の防止について、子どもたちの安心・安全に向けた取り組みについても協力していきたい。

## 5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
学習指導	確かな学力の向上	良好。算数科における子どもの思考力・表現力を高めた。	どのような話し合いをさせたいのかを明確にし、課題に応じ適切に指導。	「分かる授業」「楽しい学び」を積み重ね、基礎学習の定着も図っていただきたい。
		良好。英語専科教員の配置により、専科教員とALT等の連携による指導体制が確立した。	専科教員とALT等との連携による指導。ネイティブな英語に触れる機会を充実させる。	子どもたちは、ネイティブな英語に触れる機会を充実させてもらっている。新しい教育課程の実施に向けた準備を願う。
	教員の指導力の向上	良好。兵庫型教科担任制における組織的な指導体制の充実。	互いに授業を公開し、多くの目で見合うことで指導力の向上に努める。	若い先生方も、先輩の先生方からたくさん学んでいる。活発な交流を願う。
生徒指導	学校いじめ防止基本方針に基づく取組	良好。学校いじめ防止基本方針に基づく取り組みを進めた。	長期欠席や問題行動がある児童の家庭や関係機関との連携を図る。	それぞれの立場で守秘義務を果たし、地域として協力していきたい。
	生活習慣の確立・生徒指導の徹底	良好。「けやきのくらし」に沿って、規範意識等の社会性を養えた。	教育活動全体を通じて全職員同一指導の徹底を図る。	学校、家庭、地域の役割を明確にし、連携協力して進めることが大切。
特別支援教育	特別支援学級・通級児童へのきめ細かな対応	良好。校内教育支援委員会を中心に適切な就学指導に努めた。	体制を継続するとともに、校内教育支援委員会の機能を充実させる。	「なかよし理解」など、児童への啓発や紹介の機会を得、着実な取り組みが見られる。教室がない状況を理解し、PTAの会合等については学校外の施設を使用する。
	通常学級在籍児童へのきめ細かな対応	良好。SSW・SC・指導補助員などとの連携が図れた。	特別支援コーディネーターを中心に合理的配慮の具体的手立てを講じる。	特別支援コーディネーター2名体制は、大規模校には必要。必要な支援を願う。
保護者、地域住民との連携	保護者、PTA組織との連携	良好。校長のリーダーシップのもと組織的に協力できた。	学校に係る情報の積極的公開を継続する。	ホームページ・学校だより、PTA広報誌があり、情報発信が充実している。
	地域住民との連携	良好。下校・学習・環境ボラ等、地域との連携推進が図れた。	地域コーディネーターを中心に、組織化を推進し、より連携を図る。	学校地域運営協議会は順調なスタートを切った。地域コーディネーターを中心に、地域も協力していく。
学力保障について	知・徳・体バランスのとれた児童の育成	良好。ひょうごがんばりタイムを導入。学力の二極化を食い止める。	ひょうごがんばりタイムの取り組みを継続し、内容の充実を図る。	家庭・地域との連携協力のもと、子どもたちの規範意識の醸成や安全面を考慮した環境整備など、校長のリーダーシップのもと、学校としてよく取り組んでいる。学校・家庭・地域が連携して良い学習環境を整える。
	教師の授業力の向上	良好。市の指定研究を継続し、多数の参観者からの評価を得た。	来年度も指定研究を受け、全教員の授業力向上を目指す。	
	地域の核となる学校づくり	良好。地域防災や芝生管理、植栽など、協力体制の整備。	多様で経験豊富な人材を学校に招くことで、地域の活性化を促す。	

6 学校自己評価の実施状況について

時 期	内 容
6～7月	第1回児童・保護者アンケートをもとに中間評価の実施。
11～12月	第2回児童・保護者アンケートの実施。結果の分析。
12～1月	教職員による自己評価の実施。結果分析。
2月	評価結果をもとに2020年度に向けての計画・立案。

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

7 学校関係者評価委員会の活動について

時 期	内 容
5月	学校教育目標・評価手順の説明 運動会参観と意見交換
10月	児童・保護者の中間評価をもとに評価委員会開催 音楽会参観と意見交換
1月	オープンスクール・校内図工展参観と意見交換
2月	児童・保護者・職員の評価をもとに評価委員会開催 評価のまとめ

8 学校評価の公表について

時 期	手 段	内 容	添付
4月	PTA 総会及び学校だより	学校教育目標を説明し、今年度の重点目標や主な取組、計画等を説明。	○
9月	学校だより(臨時号)	学校評価(児童・保護者の自己評価)の中間結果を記載。保護者に配付。	○
3月	学校だより(臨時号)	学校評価(児童・保護者・教職員の自己評価及び学校関係者評価)の結果について記載。保護者に配付。	○
通年	学校ホームページ	学校評価の中間結果をアップ。学校評価(自己評価及び学校関係者評価)の結果をアップ	

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います。 → 資料編添付